

2019年8月25～26日

埼玉県知事選挙で野党共闘・大野氏当選

埼玉知事選、野党系の大野氏初当選＝自公推薦候補ら破る

時事通信 2019年8月26日00時45分



大野元裕氏

任期満了に伴う埼玉県知事選は25日投開票され、無所属新人で主要野党の県組織が支援する元参院議員の大野元裕氏（55）が、無所属でスポーツライターの青島健太氏（61）＝自民、公明推薦＝ら新人4人を破り、初当選を果たした。投票率は前回は上回る32.31%だった。

参院選後初めてとなる知事選は事実上、与野党が推す候補による一騎打ちとなった。立憲民主、国民民主、社民各党の県組織が支持し、共産党県委員会が自主的に支援する大野氏が勝利したことで、衆参両院での立憲と国民の会派合流や次期衆院選をにらんだ野党共闘に弾みがつきそうだ。



埼玉県知事選で初当選を決め、支援者らと万歳する大野元裕氏（中央）＝25日夜、さいたま市浦和区

大野氏は4期16年続いた上田清司県政の継承と発展を訴えるとともに、防衛政務官を務めた国政での経験をアピール。エネルギーの地産地消やコンパクトシティなどを核とするまちづくり構想などを唱えた。事実上の野党共闘が実現し、上田知事の応援も受けたほか、地元川口市を中心に自民党支持層に食い込むなどして幅広く票を集めた。

自民甘利氏、埼玉敗北「努力不足を反省」＝野党、衆院選に展望

時事通信 2019年8月25日23時49分

自民党の甘利明選対委員長は25日夜、埼玉県知事選で与党推薦候補が敗れたことについて「わが党支持者に浸透し切れなかった。努力不足を反省したい」と述べた。党本部で記者団の質問に答えた。

甘利氏は、10月の参院埼玉選挙区補選への対応に関し「まず敗因を分析し、執行部全体で検討し対応したい。結論を出すのに時間がかかると思う」と語った。公明党の佐藤茂樹選対委員長は「誠に残念だ。結果を真摯（しんし）に受け止め、敗因を分析したい」との談話を出した。

一方、主要野党が支援した大野元裕氏の勝利を受け、国民民主党の玉木雄一郎代表はコメントを発表し、「与野党激突の戦いを

制したことは、次期衆院選に大きな展望を切り開くものだ」と強調。共産党の小池晃書記局長も、取材に対し「この流れを次の衆院選に向けてさらに本格的なものにしていきたい」と語った。

埼玉知事に野党共闘の新人大野氏 自公推薦候補破る、政権に痛手

2019/8/25 23:41 (JST)8/25 23:42 (JST)updated 共同通信社



埼玉県知事選で当選が確定となり、支援者らと万歳する大野元裕氏＝25日夜、さいたま市

任期満了に伴う埼玉県知事選は25日投開票の結果、立憲民主党など4野党が支援する無所属新人の元防衛政務官大野元裕氏（55）が接戦の末、自民、公明両党推薦で無所属のスポーツライター青島健太氏（61）ら4新人を破り、初当選を決めた。県選挙管理委員会によると、投票率は32.31%で、4年前の前回知事選を5.68ポイント上回った。

7月の参院選後、初の与野党対決型知事選。4党が事実上共闘した野党側は、10月の参院埼玉選挙区補欠選挙、秋の臨時国会での攻防や次期衆院選に向けた弾みにしたい考え。安倍政権は総力戦を展開したが敗北。安倍晋三首相の政権運営に痛手となりそうだ。

7月の参院選後、初の与野党対決型知事選。4党が事実上共闘した野党側は、10月の参院埼玉選挙区補欠選挙、秋の臨時国会での攻防や次期衆院選に向けた弾みにしたい考え。安倍政権は総力戦を展開したが敗北。安倍晋三首相の政権運営に痛手となりそうだ。



大野元裕氏

埼玉県知事選、野党支援の大野氏初当選 自公推薦破る

朝日新聞デジタル 2019年8月25日22時22分



支持を訴える大野元裕氏（右）＝20

19年8月23日午後4時4分、さいたま市の大宮駅西口、笠原真撮影

16年ぶりに新顔同士が対決した埼玉県知事選は25日投開票され、上田清司知事や立憲民主党などの県組織の支援を受けた元参院議員大野元裕氏（55）が初当選を果たした。自民、公明

が推薦したスポーツライター青島健太氏（61）ら4人を破り、事実上の与野党対決を制した。投票率は32・31%（前回26・63%）。

元国民民主党の大野氏は防衛大臣政務官を務め、中東情勢専門家として危機管理にも携わった政治経験をアピール。公休を取って県内を一緒に回るなど全面的に支援を続けた上田知事の影響力もあり、課題の知名度を上げていった。「上田県政の継承と発展」を掲げ、4期16年で財政再建などに取り組んだ上田知事の実績を示して「上田県政を後戻りさせてはいけない」と訴えた。

元プロ野球選手の青島氏は高い知名度があり、選挙戦を優位に進めているとみられていたが、大野氏の猛追を振り切ることができなかった。告示前から自民党の二階俊博幹事長と岸田文雄政調会長が応援に入り、告示後も閣僚や党幹部が連日訪れた。菅義偉官房長官は告示前と告示後の2度にわたって県内入り。千葉県の森田健作知事ら他県の知事も応援に駆けつけるなど、組織戦を展開した。

自民・甘利選対委員長、埼玉知事選「努力不足を反省」

朝日新聞デジタル 2019年8月26日 01時12分



記者の質問に答える自民党の甘利明選対委員長＝

2018年10月9日午前10時52分、東京・永田町の党本部、岩下毅撮影

自民党の甘利明選挙対策委員長は25日夜、埼玉県知事選で自民が推薦した青島健太氏の敗北が確実にしたことについて、「埼玉県政が政権と一緒に歩いていく大きなチャンスを逃した我々の努力不足をしっかりと反省したい」と、党本部で記者団に述べた。

甘利氏は「出口調査の結果などによると、自民党支持者に浸透していないのが大きく浮かび上がってくる」と指摘。与野党対決の構図の中、自民支持層をまとめきれなかったのが敗因の一つとの認識を示した。埼玉県の上田清司知事が当選確実となった大野元裕氏の支援に回ったことも影響したとの見方も示した。

10月には、知事選に転出した大野氏の参院議員辞職に伴う参院埼玉選挙区の補欠選挙が行われる。甘利氏は補選への候補者擁立の見通しを問われたが、「(埼玉県知事選の)敗因をしっかりと分析し、どう対応するか、執行部で検証し、検討して対応したい。少し結論を出すのに時間がかかると思う」と述べるにとどめた。

また、大野氏を支援した国民民主党の玉木雄一郎代表は25日夜、「参院選後初の知事選で与野党激突の厳しい戦いを制したことは、次期衆院選に臨む我々にとっても大きな展望を切り開くものとなった。野党が連携して戦うことが政権交代につながると確信する」などと語る談話を発表した。

埼玉県知事選、新人・大野元裕氏が初当選

読売新聞 2019/08/25

埼玉県知事選は25日、投票が行われ、新人で前参院議員の大野元裕氏（55）（無所属＝立憲民主、国民民主、社民の各党県組織支持）が、いずれも新人で、スポーツライターの青島健太氏（61）（同＝自民、公明推薦）、NHKから国民を守る党公認の放射線科医師・浜田聡氏（42）、元高校教諭の武田信弘氏（65）（無所属）、元社員の桜井志津江氏（63）（同）の4人を破り、初当選した。

現職の上田清司知事が立候補しなかったため、県内での新知事の誕生は16年ぶりとなる。

大野氏初当選 埼玉知事選 与党系との一騎打ち制す 野党共闘に弾み

毎日新聞 8/25(日) 22:24 配信



支援者からの大野コールに笑顔で答える大野元裕氏＝さいたま市浦和区で2019年8月25日午後10時24分、大平明日香撮影
任期満了に伴う埼玉県知事選は25日投開票され、立憲民主、国民民主、共産、社民各党の県組織などが支援する元参院議員、大野元裕氏（55）が、自民、公明が推薦するスポーツライター、青島健太氏（61）ら4人を破り初当選した。投票率は32・31%（前回26・63%）。事実上の与野党一騎打ちを制し、今後の野党共闘に弾みが付きそうだ。

7月の参院選後初の知事選はいずれも新人の大野氏、青島氏による接戦となり、各党幹部らが応援に入った。大野氏は4期16年で退任する上田清司知事の支援を受け、県政の継承を掲げながら政党色を薄めた選挙戦を展開。県内医師数の増加や埼玉高速鉄道の延伸なども訴え、支持を広げた。

上田知事と対立する自民は、16年ぶりの県政与党の奪還を目指して青島氏を擁立。元プロ野球選手の知名度を生かし、県政刷新を訴えたが及ばなかった。【上野宏人】

無党派層からの支持、大野氏は6割 青島氏は3割 埼玉知事選出口調査

毎日新聞 2019年8月25日 21時09分(最終更新 8月25日 23時04分)



【左】大野元裕氏 【右】青島健太氏

25日投開票の埼玉県知事選で、毎日新聞社は共同通信社など

2社と合同で出口調査を実施し、2449人から回答を得た。

それによると、支持政党別で、無所属新人の元参院議員、大野元裕氏（55）は支援を受けた▽立憲民主、共産支持層の8割▽国民民主の7割▽社民の6割——を固めたほか、自民の3割▽公明の2割——と保守層にも食い込み、無党派層からも6割の支持を集めた。

無所属新人のスポーツライター、青島健太氏（61）は推薦を受けた自民、公明支持層の7割をまとめ、日本維新の会の6割の支持も集めたが、無党派層は3割にとどまった。

投票基準別では、大野氏に投票した人の6割が「政策・公約」を基準に投票していた。「支持政党や団体の推薦」が2割で続いた。青島氏は「政策・公約」「人柄・イメージ」が3割ずつで並び、「支持政党や団体の推薦」も2割あった。

新知事に最も力をいれてほしい政策は「医療・福祉」と「経済振興・雇用」が3割ずつ。年代別では「教育・子育て」に30代の5割、20代の4割、40代の3割が期待。「医療・福祉」は60代と70代以上の4割が望んだ。

上田県政は8割が肯定的に評価し、否定的な評価は1割だった。【上野宏人】

「衆院選に大きな展望」野党歓迎 大野氏埼玉知事選初当選統一加速へ

毎日新聞2019年8月25日 23時46分(最終更新 8月26日 00時11分)



当選確定の知らせを受けて、

支援者から花束をもらう大野元裕氏（右）＝さいたま市浦和区で2019年8月25日午後10時17分、大平明日香撮影

立憲民主、国民民主、共産、社民の野党4党は、10月の参院埼玉選挙区補選や次期衆院選での野党の連携強化に向け、弾みが付くと期待する。

国民の玉木雄一郎代表は25日夜、「次期衆院選に臨む我々にとっても大きな展望を切り開くものとなった。より一層の野党連携を進める」などとする談話を発表した。

立憲の長妻昭選対委員長は、毎日新聞の取材に「各党がばらばらに候補者を立てず、連携できた」と勝因を分析。参院補選でも「野党統一候補を立てなければいけない」と候補一本化を目指す考えを示した。

立憲、国民は次期衆院選をにらみ、衆参両院で統一会派を結成する予定で、「野党の統一会派に向けて弾みが付く」（長妻氏）ことへの期待もある。

自民「支持層に浸透しきれず」

一方、青島氏を推薦した自民党の甘利明選対委員長は同日夜、自民党本部で記者団に「自民党支持層に浸透しきれなかった。

我々の努力不足をしっかりと反省したい」と述べた。

同じく青島氏を推薦した公明党の佐藤茂樹選対委員長は「青島氏を全力で支援したが、勝利へつながらなかったのは誠に残念だ。結果を真摯（しんし）に受け止め、敗因を分析していきたい」とのコメントを発表した。【野間口陽、竹内望】

「県民優先、上田県政継承」で伸び悩み克服 大野氏 埼玉知事選初当選

毎日新聞2019年8月25日 22時56分(最終更新 8月25日 23時49分)



当選確定の知らせを受け、支援

者らと万歳する大野元裕氏（中央）＝さいたま市浦和区で2019年8月25日午後10時30分、大平明日香撮影

16年ぶりの新人対決となった埼玉知事選は、野党各党の県組織などの支援を受け、上田清司知事もバックアップした元参院議員、大野元裕氏（55）が、自民、公明が推薦するスポーツライター、青島健太氏（61）との激戦を制した。

大野氏が当選確定との一報が流れると、さいたま市浦和区の事務所は拍手と歓声に包まれた。真夏の選挙戦で日焼けした顔で現れた大野氏は「県民の勝利だ。有権者に訴えが伝わった。時代に合わせて上田県政を発展させていきたい」と声を弾ませた。



支援者からの大野コール

に笑顔で答える大野元裕氏＝さいたま市浦和区で2019年8月25日午後10時24分、大平明日香撮影

政権与党の全面支援を受けた青島氏に対し、大野氏は「応援団長」を名乗る上田知事を前面に押し出して「県民にとって優先度の高い政策をやっていきたい」などと訴えた。

陣営独自の世論調査などで当初は支持が伸び悩んでいたが、希望の党幹事長だった行田邦子元参院議員が出馬を取りやめ、事実上の与野党一騎打ちに。地元・川口市の経済界の後押しもあり保守支持層にも浸透した。【鷲頭彰子】

立花 N 国党首「3年後、参院議員やめ参院選出馬」 埼玉知事選敗北で

毎日新聞2019年8月26日 00時01分(最終更新 8月26日 00時34分)



落選について話す立花孝志党首(左)

と浜田聡氏＝東京都千代田区の参院議員会館で 2019 年 8 月 25 日午後 10 時 14 分、山越峰一郎撮影

NHK から国民を守る党の立花孝志党首は 25 日夜、党公認の医師、浜田聡氏 (42) が敗れた埼玉県知事選について東京・永田町の参院議員会館で取材に応じ「惨敗だと思っている」と話した。

今後については、10 月 27 日投開票の参院埼玉選挙区補選に浜田氏を引き続き擁立すると表明。衆院選については「年内解散なら、289 選挙区に候補者を立てることはやめる。(党の) 体力がつくまでは比例ブロックに 1 人ずつ出す。3 年後に参院議員をやめて浜田氏に議席を譲り、もう一回参院選に出る」などと話した。【山越峰一郎】

埼玉知事選、野党共闘・大野氏が当選 自公推薦破る

日経新聞 2019/8/25 22:38



埼玉県知事選で当選が確実となり、記者の質問

に答える大野元裕氏 (25 日夜、さいたま市) =共同
任期満了に伴う埼玉県知事選は 25 日投開票され、野党 4 党が支援した無所属新人で元防衛政務官の大野元裕氏 (55) が、無所属新人でスポーツライターの青島健太氏 (61) =自民、公明推薦=ら 4 人を破り初当選した。投票率は 32.31%で、前回の 26.63%を 5.68 ポイント上回った。

大野氏は 4 期 16 年務めた上田清司氏の路線継承を訴えた。立憲民主、国民民主、社民 3 党の各県組織が支持し、共産党も自主支援した。7 月の参院選後初の知事選で、与野党の事実上の一騎打ちとなったことで各党が応援に注力していた。自民党は二階俊博幹事長や菅義偉官房長官、野党は立民の枝野幸男代表や国民民主の玉木雄一郎代表らが応援に入った。

玉木氏は 25 日夜「与野党激突を制した。次期衆院選に向けて一層の野党連携を進める」との談話を発表した。自民党の甘利明選対委員長は 10 月に控える参院埼玉選挙区の補欠選挙への影響をにらみ「敗因を検証して補選に取り組んでいきたい」と党本部で記者団に語った。公明党の佐藤茂樹選対委員長も「結果を真摯に受け止め敗因を分析していく」との談話を発表した。

おおの・もとひろ=89 年 (平元年) 国際大院修了。株式会社専務などを経て、10 年参院議員に初当選、2 期。埼玉県出身、55 歳。

埼玉県知事選 枝野氏のおひざ元で野党共闘が奏功 与党は総

力戦も…

産経新聞 2019.8.26 00:18

25 日投開票の埼玉県知事選で、野党統一候補の大野元裕元防衛政務官が事実上の与野党一騎打ちを制した。主要野党は共産党も含めた野党共闘が奏功した形で、参院埼玉選挙区補欠選挙 (10 月 27 日投開票) などに弾みがつきそうだ。自民党は、先の参院選後初の大型の地方選挙ということもあり総力戦で臨んだだけに、敗北は補選や今後の国会運営に影響しそうだ。

主要野党は参院選の共闘の枠組みを生かし、候補を大野氏に一本化。大野氏は現職の上田清司知事の支援を受けたほか、無党派層の取り込みにも徹した。

勝利に胸をなで下ろしたのは大野氏だけでない。埼玉を地盤とする立憲民主党の枝野幸男代表は選挙戦最終日の 24 日に大野氏の応援に入り、勝利に貢献した。

一方、自民党は、告示前から二階俊博幹事長や菅義偉官房長官らを集中投入して推薦候補を支援した。

消費税率 10%への引き上げ後、初の国政選挙となる参院補選は再び与野党対決となる可能性があり、野党側は上田氏の出馬が取り沙汰される。自民党の甘利明選対委員長は 25 日、党本部で記者団に「敗因を分析して対応したい」と厳しい表情で述べた。(清宮真一、千田恒弥)

埼玉知事選敗北 自民・甘利氏「支持者に浸透しきれず反省」

産経新聞 2019.8.25 23:16

自民党の甘利明選対委員長は 25 日夜、埼玉県知事選で自民、公明両党が推薦した新人候補の敗北が確実になったことを受け「わが党の支持者に浸透しきれず、激戦を制することができなかった。努力不足を反省したい」と述べた。党本部で記者団に答えた。

同時に「埼玉県政が政権と一体となって歩んでいけるチャンスを逃してしまった」とも語った。

10 月 27 日投開票の参院埼玉選挙区の補欠選挙に向けては「(知事選の) 敗因をしっかりと分析して、どういう対応で臨んでいくか、執行部全体で検討したい。結論が出るまでに時間がかかるだろう」と述べた。

埼玉県知事選 大野氏「上田県政継承し 時代に合わせ発展」

NHK2019 年 8 月 25 日 23 時 13 分



埼玉県知事選挙で初当選した大野元裕氏は「県民のための政治という上田県政のいちばん大きな柱を継承し必ず守っていくことと、必要な時代に合わせて発展を遂げていくことの 2 つをしっかりとやっていきたい。これから直面する埼玉県の少子高齢化問題に対し、まず一歩、大きく踏み出し、対処することから始めていき

たい」と述べました。

自民 甘利選対委員長「補選へ 結論には時間かかる」

自民党の甘利選挙対策委員長は記者団に、「自民党の支持者に浸透しきれなかった。埼玉県政が政権と一体になって歩む大きなチャンスだったにもかかわらず、逃してしまったわれわれの努力不足を反省したい」と述べました。

そのうえで10月に行われる参議院埼玉選挙区の補欠選挙について「今回の敗因をしっかりと分析して、どういう対応をしていくか執行部全体で検討していきたい。結論を出すには時間がかかると思う」と述べました。

公明 選対委員長「真摯に受け止め敗因分析」

公明党の佐藤選挙対策委員長は「わが党は青島氏を全力で支援したが、勝利へつながらなかったのは誠に残念でならない。今回の結果を真摯（しんし）に受け止めるとともに、敗因を分析していきたい」という談話を出しました。

埼玉県知事選 大野元裕氏が初当選 野党4党が支援

NHK2019年8月26日 0時36分



事実上の与野党対決の構図となった埼玉県知事選挙は、立憲民主党や国民民主党など野党4党が支援した元参議院議員の大野元裕氏（55）が、自民・公明両党が推薦した新人らを破り初めての当選を果たしました。

埼玉県知事選挙の開票結果です。

▽大野元裕、無所属・新、当選。92万3482票。

▽青島健太、無所属・新。86万6021票。

▽浜田聡、NHKから国民を守る党・新。6万4182票。

▽武田信弘、無所属・新。4万631票。

▽櫻井志津江、無所属・新。3万4768票。

立憲民主党、国民民主党、共産党、社民党が支援した元参議院議員の大野氏が、自民党と公明党が推薦したスポーツライターの青島氏らを破り、初めての当選を果たしました。

大野氏は埼玉県川口市出身の55歳。

旧民主党政権で防衛政務官を務めた元参議院議員で、2期目の途中で辞職して今回の知事選挙に立候補しました。

選挙戦で大野氏は、4期16年務めた上田知事の県政を継承し財政再建などの改革を進めると訴え、上田知事からも全面的な支援を受けました。

その結果、支援を受けた立憲民主党、国民民主党、共産党などの支持層を固め、支持政党を持たない無党派層からも支持を集めて初めての当選を果たしました。

JNN2019/8/25

埼玉県知事選、新人の大野元裕氏が初当選

25日に行われた任期満了に伴う埼玉県知事選挙で、前参議院

議員で新人の大野元裕氏が初当選を果たしました。

25日に開票が行われた埼玉県知事選挙では、前の参議院議員で立憲民主党など野党4党が支援する大野元裕氏（55）が、自民党・公明党が推薦する、元プロ野球選手でスポーツライターの青島健太氏（61）との新人同士の事実上の一騎打ちを制し、初当選を果たしました。

「埼玉県民にとって必ずや素晴らしい未来の幕開けであったと言えるよう、私も粉骨砕身、頑張っ参ります」（大野元裕氏）

大野氏は埼玉県川口市出身。外交官から国会議員に転身し、民主党政権下では防衛大臣政務官を務めるなど、政策通として知られています。現職の上田知事からの「継承と発展」を掲げて、選挙戦を展開していました。

埼玉新聞 2019年8月25日(日)

<知事選>大野元裕氏が初当選 県民、上田県政の継承選ぶ 上田知事や野党4党が支援、与野党対決制す



初当選が決まり、支援者らと共に万歳して喜びを分かち合う大野元裕氏（中央）＝25日午後10時15分ごろ、さいたま市浦和区高砂の事務所

任期満了に伴う知事選は25日投開票され、立憲民主党など野党4党と退任する上田清司知事が支援する前参院議員の大野元裕氏（55）が、自民、公明両党が推薦するスポーツライターの青島健太氏（61）、NHKから国民を守る党公認で医師の浜田聡氏（42）、元高校教諭の武田信弘氏（65）、元会員の櫻井志津江氏（63）の4人を破り、初当選を果たした。県民は上田県政の転換を訴えた青島氏ではなく、継承、発展を強調した大野氏を選択した。

参院選後初の大型選挙。16年ぶりの新人同士による選挙戦は大野氏と青島氏の与野党対決、事実上の一騎打ちとなり、激しい選挙戦が展開された。

参院議員を9年務めた大野氏は「今までの16年間を後戻りさせてはならない。県民重視、県民を主題にした施策でさらに発展させる」と、全面的な支援を受けた上田氏の県政の継承、発展を強調。少子高齢化対策や健康、子育て、災害・防犯、都内からの鉄道延伸など12分野128項目の政策を提示し、「日本一暮らしやすい埼玉を実現する」と主張した。

立民、国民民主、社民、共産の各県組織が支援して「非自民」の結集をアピールし、「無所属県民党」を掲げて無党派層の取り

込みを図った。中央からも党代表らが来援し、祖父が市長を務めて支持者の多い地元川口市などでは自民支持層にも食い込んだ。

青島氏は元プロ野球選手の経験から、熊谷市などで開催されるラグビーワールドカップ (W杯) や20年の東京五輪・パラリンピックを契機にしたスポーツをはじめ、文化や芸術の振興を強調、子どもの教育の充実、インフラ整備による「県土強靱(きょうじん)化」などを掲げ、「県政をダイナミックに変え、新しい埼玉をつくる」と、上田県政の転換を訴えた。

県内国会議員や県議だけにとどまらず、前回の知事選では自民候補を推薦しなかった党本部も政治、行政経験のない青島氏を手厚く支援。公明とのパイプの太い菅義偉官房長官や自民の二階俊博幹事長ら政権幹部が来援し、テコ入れを図る総力戦で臨んだが、及ばなかった。

浜田氏は受信料を払う人だけが、NHKを視聴できるようにするスクランブル放送の実現、武田氏は地熱エネルギーの活用、桜井氏は「安心・安全・安穩の埼玉」などを訴えたが、届かなかった。

埼玉新聞 2019年8月26日(月)

<知事選>未来の埼玉、幕開け 「政策通」大野氏が初当選 政党や会派超え支援、課題めじろ押し



初当選を決め、支援者から花束を渡され、笑顔を見せる大野元裕氏(中央) = 25日午後10時15分ごろ、さいたま市浦和区高砂の選挙事務所

25日に投開票された知事選は、野党4党の県組織が支援する前参院議員大野元裕氏(55)が、自民、公明両党が推薦するスポーツライター青島健太氏(61)ら新人4人を下して初当選した。上田県政の「継続」を訴えた大野氏が、事実上の与野党対決を制した。政策通として知られ、上田知事の全面支援を受けた大野氏。県民の負託を受けて新時代を担うことになった。

■「県民が主語」訴え 草の根選挙、支持拡大

さいたま市浦和区高砂の大野元裕氏の事務所に当選確定の一報が飛び込むと、詰め掛けた支援者らから歓喜の声が響いた。接戦となった知事選で勝利を収めた大野氏は「心から感謝します。一人一人の力があってこそ、当選することができた。未来の埼玉の幕開けになるように頑張っていきたい」と喜びをかみしめた。

参院議員を辞職して臨んだ知事選。6月には所属していた国民民主党を離党し、「無所属県民党」として戦った。「有権者と同じ目線で、一人一人に政策を伝えたい」と、大宮駅や浦和駅、川口駅など、主要駅に連日立ち続けた。

国民や立憲民主党、社民党の県組織から支持を受け、上田清司知事も全面支援した。「政党や会派を超えた人たちに集まっていただいた」。日に日に支援の輪は広がり、「草の根選挙」を展開した。

上田県政の「継承と発展」を掲げ、「県民のための、県民が主語となる政治が重要」と訴えた。県庁建て替え問題については「県民のニーズに従いたい」と、福祉の充実や教育支援、交通網の整備などを優先事項に挙げてきた。

9年間の参院議員時代は「政策通」として知られた大野氏。当選確定後、「埼玉も少子高齢化が進んでいく。直近でもラグビー・ワールドカップの開幕が迫っている。交通、治安対策など課題がめじろ押しだ。時代に合わせて必要なことに取り組む」と話した。

埼玉新聞 2019年8月26日(月)

<知事選>今のままでは小さな埼玉に…青島氏が落選、政策浸透し切れず 自民幹部ら応援も与野党対決敗れる



支援への感謝を述べる青島健太氏 = 25日午後10時32分ごろ、さいたま市浦和区高砂の選挙事務所

25日に投開票された知事選は、野党4党の県組織が支援する前参院議員大野元裕氏(55)が、自民、公明両党が推薦するスポーツライター青島健太氏(61)ら新人4人を下して初当選した。上田県政の「継続」を訴えた大野氏が、事実上の与野党対決を制した。政策通として知られ、上田知事の全面支援を受けた大野氏。県民の負託を受けて新時代を担うことになった。

■「県政刷新」及ばず 自公支援も接戦で苦杯

県政の刷新を訴えた青島健太氏だったが接戦を制しきれず、苦杯を喫した。さいたま市浦和区の青島氏の選挙事務所に落選の報が入ると、駆け付けた支持者は一樣に信じられないといった表情を見せ、青島氏は「力強くサポートしていただいた方々、全ての方々の期待にお応えすることができなかったことをおわびします」と敗戦の弁を述べた。

選挙戦では現在の県政からの転換を訴え「埼玉を変える、私はその先頭に立たせていただきたい」と呼び掛けた。政策は「子どもたちの将来を最優先で考える県政」、インフラ整備を含めた「強靱(きょうじん)な県土づくり」「スポーツ振興と健康づくり」といった主要政策を打ち出したが、浸透し切れなかった。

無所属ながらも自民、公民の推薦を受け、遊説では県内選出の自公の衆参院議員、県議、市議らがサポート。自民党幹部も応援に駆け付けた。

選挙戦最終日の24日夜に大宮駅西口で行われた打ち上げ式では「今のままを継続しても、今のままの小さな埼玉が出来上が

ってしまうだけ」と現在の県政からの脱却を強く訴えた。

「選挙の向こう側に新しい埼玉を。これからの埼玉の新たなストーリーとデザインを私に描かせてほしい」と呼び掛けたが、事実上の与野党対決に接戦で敗れた。

直近3回の知事選の投票率はいずれも20%台と低調。事実上の与野党対決で16年ぶりに県の新しい顔を決める今回、投票率も注目される。

7日現在の選挙人名簿登録者数は613万7020人。

埼玉新聞 2019年8月25日(日)

<知事選>焦点は上田県政の継承か、転換か 16年ぶり新人同士の争い、25日投票



上田県政の継承か、転換か

任期満了に伴う埼玉県知事選は25日投票が行われ、即日開票される。16年ぶりに新人同士の争いになった選挙戦には、退任する上田清司知事や立憲民主党など野党4党の県組織が支援する前参院議員の大野元裕氏(55)、元高校教諭の武田信弘氏(65)、NHKから国民を守る党公認で医師の浜田聡氏(42)、元社員の桜井志津江氏(63)、自民、公明両党が推薦するスポーツライターの青島健太氏(61)の5人が立候補。浜田氏以外は無所属。上田氏が進めてきた県政の継承か、転換かが問われる。投票は午前7時から午後8時(一部地域除く)まで1761カ所で行われ、大勢判明は深夜の見通し。

17日間にわたる選挙戦を展開した候補者が審判の時を迎える。選挙戦は事実上、大野、青島両氏による与野党対決、一騎打ちの構図となった。

焦点は4期16年にわたる上田県政の継承か、転換かの選択。上田氏の全面支援を受ける大野氏は「上田知事がやってきた県民のための政治を一番継承したい」と主張し、青島氏は「県政をダイナミックに変え、新しい埼玉をつくりたい」と訴えている。

選挙戦ではその他、少子高齢化対策や医療・福祉の充実、産業育成、働く女性の支援策、スポーツや文化の振興、県庁舎の建て替え、インフラ整備などで論戦を繰り広げた。

候補者は最終日の24日、大栗田のさいたま市などで懸命に支持を訴えた。

大野氏は県庁舎建て替え問題を取り上げ、「県庁よりも、高齢者の福祉など皆さんにとってニーズの高いことがある。県民の声を聞く政治をしたい」と強調。最後は地元のJR川口駅で選挙戦を締めくくった。

青島氏は「子どもたちの未来を最優先で考える県政を。県の基幹産業をサポートし、未来へ向けてインフラを整える。スポーツを県民の健康づくりに」と訴え、JR大宮駅で打ち上げ式を行い、マイクを収めた。

浜田氏は、受信料を払う人だけが放送を視聴できるようにするNHKのスクランブル化と子宮頸(けい)がんワクチン接種の推奨、武田氏は予算執行の透明化、桜井氏は道路整備の必要性を主張した。